

母子施設部会

これからの母子家庭の 子どもたちの未来を考 える職員研修会

9月26日(月)、「貧困母子家庭における子どもの教育の現状と課題」というテーマで、職員研修会を大阪北ロータリークラブとの共催で開催しました。

昨今、母子家庭の中には、DVや仕事に追われるなどのさまざまな困難が原因で、子どもへのしつけを含めた「家庭内教育」の不足がその後の学習環境に影響を及ぼしているといった課題があります。

中でも、子どもの学習意欲の低下は深刻です。講義では「子どもは他人の期待する存在になろうとするあまり、自分らしさを無くし、結果的に向上心が失われることがある」と、子どもの心の特徴にふれ、「意欲があっても低所得が原因で、子どもに十分な教育費をかけることができない環境が、意欲向上を阻害しているのではないかな

ど、現代社会の構造的な問題について指摘しました。

この問題に対して母子生活支援施設には、子どもだけでなく、母親にもアプローチし、今後の「生活の質」(Quality of Life)を高めていくために、家庭全体を支援していく専門性が求められていることが明らかになりました。

子どもたちの学習意欲は、自分をしっかり見てくれる保護者・職員のいる環境で高められていくものであることを確認し、研修を締めくくりました。

(お礼)大阪北ロータリークラブ様から母子施設部会に對しまして学習用具等の寄贈をいただきました。

震災から5年。 東北の母子生活支援 施設を見学

9月30日(金)〜10月1日(土)、府外研修(宮城県)に施設職員16人が参加しました。

施設見学では、「仙台つばさ荘(菅田賢治施設長、全国母子生活支援施設協議会会長)」「仙台むつみ荘(長田伸一施設長)」「宮城県さくらハイツ(渡部秀樹施設長)」を訪ねました。各施設



仙台つばさ荘の施設前にて

には、その地域ならではの独自の取り組みがあります。

つばさ荘では「母の会」という利用者の会を組織化し、母親の主体性を尊重しながら寄り添う支援を行い、自然豊かな地にあるむつみ荘では、園内にある畑で野菜を栽培し、利用者提供しています。さくらハイツでは緊急一時保護を積極的に行い、地域の母子福祉の拠点になるような施設を心がけているとのことでした。

3施設とも震災の影響はあまり受けなかったものの、入所者の中には震災がきっかけで夫婦関係が悪くなり、DVに至って入所されるケースもあるそうです。自然災害が我々の生活に与える影響。施設の役割を見つめなおすきっかけとなりました。

頑張っています!

社会福祉法人の地域貢献

「福祉施設の強みを活かした
物品提供による生活困窮者支援」

社会福祉法人の強みを活かしたワンストップの総合生活相談「生活困窮者レスキュー事業」では、DV被害者や刑余者など、住居は確保できていても生活に必要な生活家電等が揃わない場合に、福祉施設の利用者や地域から提供のあった物品を有効に活用しています。

社会福祉法人つくし会特別養護老人ホーム萱振苑(八尾市)では、在宅介護サービスの利用者が入院等により転居する際に、居宅にあった家電製品を譲り受けたり、施設近隣の民生委員からの寄付物品を保管し、支援に活用しています。

また、法人内の職員会議でこのような取り組みを紹介したことで、職員の間で協力の輪が広がり、各家庭で余っている日用品等も集まり、支援に活用して



萱振苑内の物品保管場所。布団や電気のかさが綺麗に整頓されています。

います。

萱振苑のコミュニティソーシャルワーカー(以下CSW)の高松達朗さんは、「大阪しあわせネットワーク支援システム」の「支援物品検索機能」を活用し、施設

が保有している物品を写真付きで



高松達朗CSW

情報共有しています。八尾市内だけでなく、大阪府内の他市町村の施設などから物品提供の依頼を受けることもあり、地域や施設の種別を超えた連携の意義を実感しているそうです。

「大阪しあわせネットワーク支援システム」を活用することで、参画する社会福祉法人(福祉施設)間における情報共有や、相談支援実績やさまざまな地域貢献実践を集約し、社会福祉法人の地域貢献・社会貢献の見える化をはかることができます。

この機会に是非ご利用ください。

◆大阪しあわせネットワーク支援システム
<https://osaka-soudan.jp/ssss/user/login/>

